

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社フローラ		
事業所名	グループホーム上砂川(ユニット楽)		
所在地	空知郡上砂川町下鶉南2条1丁目3-1		
自己評価作成日	令和 4 年11月1日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoCd=0177100260-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ落ち着いた雰囲気四季を感じられる上砂川唯一2ユニットのグループホームです。各ユニットそれぞれ家族と共に考え問題解決に取り組み、気兼ねなく訪問、交流できる環境づくりを目指しています。コロナの為外出が難しい中、季節を感じて頂ける様ホーム内の飾り付けを季節毎に変え利用者様に楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山に囲まれ四季の移ろいを身近に感じることができる静かな自然環境に恵まれた地にある事業所で、近くには交番や中学校があり、避難所となる生活館も隣接しており、地域との繋がりを保ちやすい住宅街に建てられている。建物は玄関の両脇に2つのユニットが左右対称に配置した平屋建てで、中央にある事務所からは各居室の入り口や両ユニットの共有空間を見通すことができ、共有スペースで寛ぐ利用者の見守りに繋がっている。職員はこまめに季節感あふれる飾り付けへと変えており、利用者との会話の話題を増やすとともに家庭的で穏やかな雰囲気を作り出し、居間で過ごす利用者の表情も明るい。インドネシアから2人の技能実習生を迎えており、利用者や職員との関係も良く、事業所全体に活気を与えている。運営者と管理者は職員の意見に耳を傾け、働きやすい環境作りに努めるとともに研修への参加を促し、利用者にとってより良いケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせて いる (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援に より、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し理念に沿った支援を心がけて実践しています。	事業所理念「心も体もゆったりと楽しく安心して自分らしく暮らす」を玄関や居間に掲示し、職員はその意義を理解し共有して日々のケアに反映することを心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	百歳体操、避難訓練などに参加して頂いたり地域で行っているまちなかカフェにも参加し交流を深めていましたが今はコロナの影響で自粛しています	コロナ禍のため以前のような地域との交流が出来ない状況が続いているが、落ち着いた次第、以前行っていた認知症カフェの参加者との百歳体操や地域行事への積極的な参加など、地域との繋がりを保つことを検討している。自治会への加入も検討中。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の認知症の会に加盟し情報交換やアドバイスなどを行っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で外部の方の面会、訪問を制限していますので職員のみで開催ですが、議事録などを送付しご意見など頂けた場合サービス向上に活かしたいと思っています。	コロナ禍のため2か月ごとに書面会議を実施しているが、積極的に意見を得るために別会場を利用し対面での会議を検討している。平時は認知症の会会長、自治会長、地域包括支援センター職員、町議員が参加しており、家族にはその都度声をかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町福祉課、包括支援センターに相談しその都度助言を頂いています。	町役場に足を運び、福祉課や地域包括支援センターの職員に運営状況の報告や相談したり、電話やメールで助言やアドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な利用者様はいませんが職員一同、身体拘束を行わない支援に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を年4回開催し、身体拘束をしないケアに努めている。議事録は職員全員に回覧しており、研修や勉強会を実施するなど学ぶ機会を設けている。玄関は夜間以外施錠しておらず、職員の見守りや声かけで利用者の不意の外出に備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで学ぶ機会を持ち、職員同士での情報交換を行い虐待防止に努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在必要な利用者様はいません。内部研修などを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時には、十分な時間をとりご家族に説明しご理解頂いております。また不安な疑問点にも配慮しその都度相談させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し来客時などにご意見、ご要望を聞きながら、ご家族様とコミュニケーションをはかりより良い関係性を作る努力をしています。	利用者の意見や要望を日々のケアの中で聞き取り、職員全員で共有し反映させている。家族からの意見や要望は、来所時の会話や書類送付時に同封するアンケートに書き込んでもらうことで思いを受け取め、反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、モニタリング時以外でも、意見、提案を言いやすい環境づくりにも配慮しています。	管理者は職員と話しやすい関係を築いており、日々職員からの意見に耳を傾けている。運営者も定期的に事業所を訪れ職員と一対一で面談をする機会を設けており、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々と話す時間を多く作り意見、要望を聞く時間を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員での情報交換や、外部研修、内部研修など学ぶ機会を増やし、知識、向上心を高めています。町主催での勉強会も積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村で主催している交流の場になるべく多く参加出来るよう努めています。今年はありませんでした。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会を行い、情報収集すると共に困っている事、不安な事を聞き、受け止め安心出来る関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問、来所して頂きご家族の不安、ご意見、ご要望をお聞きし解決出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の支援専門員、医師との連携を密にしご家族、御本人にとって一番必要な支援を提供出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付け、居室の掃除、シーツ交換など出来る方には手伝って頂き、日々の暮らしと一緒に過ごすことでお互い支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所して頂けるように取り組んでいます。ご意見、情報を共有し、共に同じ思いで支えていける様心がけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方等、馴染みの関係を出来る限り継続維持出来るよう努めてまいります。	2ヶ月に1度の訪問理美容や家族との面会、知人からの電話の取次ぎや手紙のやり取りなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く暮らせるように支援していますが、性格、認知症の度合いによって厳しいケースも見られます。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族様の相談に応じております。ほとんどが契約終了時に関係が断ち切られてしまうことが多いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や行動などから思いや意向、希望の把握に努めています。	職員は、利用者の表情や仕草で思いを汲み取るよう努めている。担当制を用いず職員全員で見守る体制を築いており、利用者からの要望は申し送り時に情報を伝え共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご本人やご家族から情報を得ております。また、調査票も入手しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とのコミュニケーションを図り、職員同士での情報交換を行い現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に必要な関係者と話し合って現状に即した計画を作成しております。	利用者や家族の意向を把握し、管理者や職員と話し合いながら短期は6か月、長期は12か月毎にケアマネージャーが介護計画を作成し、家族からの承認と確認印を得ている。変化があれば主治医と相談しながらその都度見直し、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を作成し介護計画の見直しにいかしております。職員間での情報を共有しケアの向上にもいかしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて柔軟な対応が出来る様に努めていますが、多機能化した対応は難しい場合もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員が参加し避難訓練を行ったり、町内会、認知症の会などと地域交流しながら支援に努めています。今年度はコロナの為ありませんでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様に十分な説明をしご理解を頂き当ホーム往診主治医に変更される方が多いです。必要に応じて他院に通院を支援しています。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医への受診や往診の支援をしている。基本的に付き添いは家族が行っている。2週間毎に契約医の訪問診療を受けており、定期的な検査も受けている。協力医療機関との連携も取れており、緊急時には適切な指示を速やかに受けることができている。	

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師が訪問に来るため連携相談や必要な処置が来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の医療機関、総合病院の地域医療連携室、認知症疾患センター、市町村との連携をとって対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができる十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、職員と十分に話し合い、本人様にとって一番いい方法を考えるように努めています。	契約時に指針に基づき文章で説明し、利用者、家族の同意を得ている。看取りは出来ないが重度化した際は、利用者や家族の意向に沿いながら、利用者、家族、主治医と話し合い、状況に応じ、事業所ですることができる支援を積極的に行い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員主催の普通救命講習会を開催して実践力を身につけるよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っています。通報訓練や地域の方にも入って頂き、緊急連絡網にも入って頂いています。	コロナ禍のため消防署と相談の上避難訓練に関するリモート講習を受け、年2回職員のみで夜間火災想定訓練を実施している。備蓄品リストや消防団長や自治会長など地域協力を得るための緊急連絡網も更新済み。年1回スプリンクラーの点検も行っている。	運営母体は道内外に福祉施設を運営しており、リモート会議で情報共有する場等を設けているが、災害時の協力体制は築いていない。物資の提供や職員の派遣、一時避難先の検討など、相互協力が可能な話し合う場を設けることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重しながら、指示、命令口調にならない様に、声かけを十分に配慮しているつもりですが、残念ながらなってしまう事があります。	利用者の尊厳を守ることを心がけ、適切な言葉遣いを職員同士で確認しながら日々のケアに繋げている。表情や素振りにも気を遣い丁寧に対応している。個人情報の管理にも気を使い適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定出来る場面なるべく多く取り入れる様、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様の希望を重視していますが、完全には個別支援が出来ていないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感、季節感を心がけ支援していますが、ご本人様の拒否により難しい場合があります。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付けなどに参加して頂いております。外での食事や、職員が同じテーブルで食事をとりコミュニケーションを図っています。	職員が献立を考え、利用者の能力に合わせた形状や味付けで調理するなど手作りの料理を提供している。外食する機会は減ったが、利用者の好みを反映したりパンの目を設けるなど食事を楽しむ機会を失わないよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形、量、味付けなど工夫しています。一人一人の食事量、形態などを職員で話し合い、必要に応じて主治医に相談し指示を頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ指導を行い緑茶うがいを行っています。又、歯科医から口腔ケア指導を行って頂き実践しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、パターン化した排泄支援を行っています。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情、態度などからさりげなくトイレに誘導し排泄の自立に繋げている。利用者の能力に応じてパッドや紙おむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な食材を使用した献立や乳製品水分量などを工夫しています。自然排便が難しい方もいるため個別に主治医に相談し下剤を使用している方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間対応は現状の人数配置では難しいですが、日中に関しては個々に沿った入浴支援を出来る限り行っています。	週2回以上の入浴を基本としているが毎日入浴を楽しむこともでき、利用者の希望に添った支援をしている。入浴剤を使用し、入浴を楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事、おやつ、体操以外では居室や居間で好きな様に過ごして頂いています。お昼寝をしている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤ファイルを作り、薬剤情報を整理し職員がいつでも確認出来るようにしています。薬の変更時でも申し送りノートに書き情報共有を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活感、趣味など把握し出来る事、出来るようなことを見つけるよう努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそっての外出はなかなか行えないのですが、外出出来る機会を増やす支援を行っています。また家族と外泊や外出を楽しむ利用者様もいますが、コロナの影響で今年度は厳しい状況です。	コロナ禍のため以前のような外出する機会は減っているが、桜見物などのドライブ外出や玄関前のベンチでくつろぎながら外の景色を楽しむ機会などを設けている。年末に家族と過ごす利用者を支援しているが、感染状況を見ながら判断している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでのお小遣い管理ですが、御本人の希望で少額の金銭を所持し使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者様もいます。その他の利用者様に関しては、希望時その都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節に合ったアイテムなどを設置しています。行事食や普段の食事でも季節の食材を意識し提供しています。	明るくゆったりと家具を配置している居間でくつろぐ利用者が多く、季節感あふれる飾り付けが色どりを豊かにしている。飾り付けは利用者とともに作ることもあり、正月の繭玉作りは楽しみのひとつになっている。午前中は体操で身体を動かし、午後は歌のDVDを鑑賞し楽しむなど思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを設置し玄関フロアにはベンチを置き気の合った利用者様同士が日向ぼっこやソファでの会話を楽しんで頂ける様にと思い設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に説明し、出来るだけ使い慣れた家具、小物など持参して使用して頂いています。	備え付けのクローゼットはあるが、利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇など好みのものを持ち込み、過ごしやすいよう配置している。壁には家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しホーム内を完全バリアフリーにしております。		